

## 2023年度委員会事業報告書

グループ名 豊川モデル創造グループ 委員会名 とよかWAでつなげる地球の輪委員会

担当副理事長 杉本有史  
委員長 美山聖薫  
副委員長 氏原諒  
総括幹事 井上真行  
拡大幹事 小嶋哲也  
拡大幹事 水口就登  
運営幹事 金田祐太郎  
広報幹事 上野泰希  
アドバイザー 杉本考優



### 【担当事業及び担当例会】

5月例会 とよかわ多文化交流スポーツ万博 2023

10月例会 地域の文化に触れよう！ ～祭りでつなげる人のWAっしょい！～

### 【実施効果及び成果】

【事業①】5月例会 とよかわ多文化交流スポーツ万博 2023

日本人市民と外国人市民が相互理解を深め、グローバルな視点を持つ市民を増やすことで継続的な交流活動の一助となることを目的に事業を行いました。

スポーツ大会には、日本人市民 23 名、外国人市民 18 名に参加していただき、当日来場者ブースには 1,180 名の方に来場していただきました。

「日本人市民と外国人市民が相互理解を深めること」について、大会についてはバディ制度を取り、自己紹介を行い、お互いに話し合う時間を設け、ダンスをし、ゴールという同じ目標を持ってチームとなり優勝を目指しました。その過程で、お互いに交流をし、お互いの国について話あった事で外国の方と触れ合う事に対して躊躇することはなくなったと思います。しかし、当日参加者ブースでは、日本の方に対し、外国の方が日本に住む際の言語の壁の苦勞に対する理解を深める事は多少できましたが、相互理解を深める事は難しかったです。

【事業②】10月例会 地域の文化に触れよう！ ～祭りでつなげる人のWAっしょい！～

国際交流協会が新たな交流の場を作ることで、日本人市民や外国人市民が積極的に交流を行える意識を持った人材となることを目的に事業を行いました。

当日参加者は 15 名おり、その内 4 名の方に手筒を上げていただきました。手筒を製作する過程におい

て何度も会う機会があり、皆で1つの目標に向かって積極的に交流を行うことができました。

1度の当日交流ではなく、回数を重ねた交流であったことが良かったと思います。

国際交流協会側→手筒を打ち上げる外国の方の確保。

青年団側→外国の方に手筒作成を教え、本番打ち上げを行う。

という役割分担が明確で、比較的シンプルな手法でしたので、トラブルが起きることは特にありませんでした。この形であれば次年度以降も再現性は高く、手法としては良かったと思います。

## 【反省並びに今後の課題】

集客に関して、とても難しい事業でした。国際交流協会には最初からコンタクトを取りに行き、関係を深めることが出来ましたが、市民協働国際課には10月例会時に挨拶に伺いました。集客の面において、委員会基本方針が決まったらすぐに両団体に挨拶に伺うべきでした。

運営の面においては、5月例会時に青年会議所メンバーと外国の方々との交流促進がうまくはかれず、巻き込めなかった点を反省しています。

今後は青年会議所、国際交流協会、市民協働国際課、一般の外国の方の参加者など、うまく連携した事業を行えるといいかと思えます。

## 【委員長所見】

今年1年間、継続性の観点から外国人市民と日本人市民の相互理解が深まるよう事業を考えてきました。外国の方にとってよい経験となり、また継続しやすい事業は何かを真剣に考え取り組んで参りました。

その過程で、副理事長をはじめとする委員会メンバーの皆さんや理事メンバーの方々には、議案のチェックや事業の改善に関する協議など、貴重なご意見をいただきました。

この事業を通じて、多くの出会いがあり、自身の強みや弱み、事業の進め方など、多くのことを学ぶことができました。

## 【担当室長所見】

日本人と外国人が共生する社会や地域づくりには、過去から青年会議所として取り組んできましたが、未だに解決されていない課題が残っています。この課題にどのように取り組むか考えました。今年1年の事業ではスポーツや祭りを通じた交流を試みましたが、目的達成の面で課題が残りました。一時的に仲良くなれても、継続的な交流は容易ではありませんでした。しかし、今年の活動を通じて多くの外国人と交流でき、外国人との共生の楽しさを再確認しました。国際交流協会や進雄神社の祭り団体と提携することで、次年度以降にも外国人市民との交流の機会を増やす一歩になったと感じています。来年以降も、個人的にも豊川市が外国人にとって住みやすいまちづくりに貢献していきたいと考えています。